

祝・養父市誕生1周年

市民のつどい「市花・市木を発表」



養父市木「ブナ」を植樹する梅谷馨・養父市長（左から4人目）ら

養父市誕生1周年を祝う「市民のつどい」を5月15日、八鹿文化会館ホールで開催しました。
当日は、近隣市町長らの来賓、多くの市民のみなさんが一同に会し、養父市誕生1周年を祝うとともに、養父市の「市花」と「市木」の発表も行いました。
また、同式典において明石市との交流協定も締結されました。（4ページに掲載）

式典には、来賓をはじめ市民のみなさんら約600人が参加し、養父市誕生1周年を祝いました。

式典のオープニングでは、但馬各地の高校生から60歳代までの総勢50人で活動されている「なんたん吹奏楽団」のメンバー25人による迫力ある演奏を披露していただきました。

養父市誕生1周年にあたって梅谷馨・養父市長は「合併初年度の昨年は、台風23号災害と佐々木憲二初代市長の急逝という、養父市にとって思いもかけない試練の1年でした。今年度はあらためて新市の基礎固めの年と位置づけ、台風災害の復旧・復興や行財政改革の推進、振興計画の策定を早急に進め、新市の発展に全力を尽くします」とまちづくりへの決意を述べました。

その後、養父市市花・市木選定委員会の尾崎弘明委員長が、かねてより募集をしていた養父市の市花と市木の選定結果と経過について発表。式典の最後には、のじぎく兵庫国体の



「なんたん吹奏楽団」のみなさんによる息の合った演奏

の啓発をかねて、市内の子どもたちで構成するラビットクラブ（八鹿とキッドピックス（大屋）による「はばタンダンス」が披露されました。

式典終了後、市役所庁舎前の花壇に場所を移して記念植樹を行いました。この花壇には、昨年8月に実施した養父市誕生記念式典において旧4町木を植樹しており、梅谷市長をはじめ関係者らが、養父市の一層の発展を祈って養父市木に決まった「ブナ」を追加植樹しました。